

(別記)

## さくら市水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

さくら市は、比較的平坦な地勢条件と豊富な水利を活かして、水稻、麦、大豆等の土地利用型農業が主体となっており、農地利用集積率が高い状況にある。また、いちご、にら、なす等の園芸作物の生産も盛んであるが、農業従事者の高齢化や農業後継者不足が進む中で、耕作放棄地面積が拡大していることから、新たな担い手の確保が課題となっている。

### 2 作物ごとの取組方針等

食料自給力・自給率向上の観点から、水田活用の直接支払交付金等を活用し、調整水田等不作付地への飼料用米・麦・大豆・飼料作物・そば・加工用米・野菜の作付拡大を図っていく。

#### (1) 主食用米

米政策及び米流通の変化への対応と実需者・消費者のニーズを考慮し、JAグループの方針を基本としつつ、本市としての特色ある地域特産米の生産とJA独自の販売体制を構築するよう取り組む。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米・米粉用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を主体とする非主食用米の推進は重要であることから、JAグループを介した畜産農家等への供給ルート拡大及び生産拡大を図る。生産拡大にあたっては、産地交付金を活用した推進を図る。

##### イ 新市場開拓用米

日本の食生活の変化に伴い、主食用米の国内需要が徐々に低下している。国内への主食用米の供給過多を防ぐとともに、新たな販路を開拓するために、海外への輸出を中心に取組を推進する。

##### ウ WCS用稲

耕種農家・畜産農家の連携を図り、畜産農家の需要を喚起しながら、品質の安定・取組の推進を図る。

##### エ 加工用米

実需者及びJAグループ・集荷業者との連携を図り、生産の拡大と安定供給を図る。

##### オ 備蓄米

JAグループ・集荷業者と連携を図り、政府備蓄米の入札を通じて、備蓄米の枠を確保し、生産を推進する。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

#### ア 麦

需要に即した麦種・品種の作付を推進  
栽培暦、防除指針に基づき、農薬適正使用に努め、生産履歴記帳を基本として、目的に応じた記帳、管理項目を設定し、GAP（農業生産工程管理）への取り組みを推進する

#### イ 大豆

地産地消を視野に入れ、地元業者への販売を検討する  
低コスト・高品位生産の推進  
適正な農薬使用を指導し、安全・安心な大豆の生産を進める

#### ウ 飼料作物

自給飼料生産と低コスト・高品位生産を推進する

### (4) そば、なたね

地域内での地産地消を推進する  
製粉業者との契約栽培拡大を推進する  
適期播種や排水対策等による安定生産と品質向上を図る

### (5) 高収益作物（野菜）

さくら市の振興作物として、いちご・春菊・にら・なす・ねぎ・オクラ・うど・トマト・アスパラガスの9品目を設定する。

#### いちご

- ・部会を中心に規模拡大を図りながら、新規栽培者の開拓に取り組む
- ・市場出荷中心の販売体制の強化及び一部地産地消に向けた出荷体制の整備に取り組む

#### なす

- ・補助事業等の導入により、面積の拡大と新規栽培者確保に努める
- ・目揃い会の開催により出荷規格の統一品質の向上を図る
- ・部会員全員がエコファーマーの認定を受け、安全・安心を前面に打ち出した販売戦略の確立を図る

#### にら

- ・新規栽培者を開拓するとともに、栽培経営マニュアル等の提示により、生産者の規模拡大を図り生産量の拡大を図る
- ・出荷市場への出荷情報の提供により、出荷市場における計画流通を促すことでブランド化を目指す

#### 春菊

- ・契約栽培の拡大により価格安定に努める
- ・新規栽培者を確保し、面積拡大に努める

## ねぎ

- ・周年栽培出荷体系による栽培技術の向上と規模拡大に努める
- ・他地区との連携による統一部会のメリットを活用して出荷市場の統一化をめざし、有利販売に努める

## オクラ

- ・夏場の収入源として女性・中高年者が栽培の中心であり、安定多収品種の選定および普及に努める
- ・予冷出荷による鮮度保持に努め、産地化を目指す

## うど

- ・新規栽培者を確保し、面積拡大に努める

## トマト

- ・支部組織の育成
- ・新規栽培者の確保

## アスパラガス

- ・消費動向に即した売れる商品・規格作り
- ・統一部会のメリットを活用して出荷市場の統一化を目指し、有利販売に努める

### (6) 不作付地の解消

人・農地プランに位置づけられた担い手への集積を図るとともに、飼料用米の作付により、不作付地の解消を図っていく。

### (7) 畑地化の推進

現在の作付状況調査等を踏まえ、野菜等の畑作物の本作化を進めるにあたり、畑地の団地化や長期的な作付を計画し、効率的な土地利用を推進していく。

## 3 作物ごとの作付・取組予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (計画・実績) (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (計画) (ha)	平成 32 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	3007.0	2787.0	2750.0
飼料用米	361.1	390.0	400.0
米粉用米	-	-	-
WCS 用稲	28.9	35.0	35.0
加工用米	43.2	60.0	60.0
備蓄米	112.2	130.0	130.0
新市場開拓米	-	10.0	15.0
麦	356.7	390.0	400.0
大豆	253.9	280.0	290.0
飼料作物	175.0	200.0	200.0

そば	137.3	150.0	160.0
なたね	-	-	-
二毛作助成	337.6	350.0	380.0
耕畜連携助成	259.4	270.0	290.0
その他地域振興 作物	62.9	65.0	70.0
野菜			
・いちご	16.3	16.8	18.2
・なす	5.7	6.0	6.5
・にら	19.8	20.0	20.5
・春菊	3.7	4.0	4.2
・ねぎ	10.8	11.0	13.4
・オクラ	0.5	0.7	0.9
・うど	2.8	3.0	3.1
・トマト	2.0	2.0	3.1
・アスパラ	1.3	1.5	2.1
ガス			

※平成 29 年度の数値については実績値

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	取組	目標	目標	
				現状値	目標値
1	麦・大豆・そば・ 飼料作物・なたね 等	二毛作助成	取組面積	(H29 年度) 337.3 ha	(H32 年度) 380.0 ha
2	飼料作物等	耕畜連携助成(わら利用)	対象取組面積	(H29 年度) 254.8 ha	(H32 年度) 284.0 ha
3	飼料作物等	耕畜連携助成(水田放牧)	対象取組面積	(H29 年度) 4.2 ha	(H32 年度) 5.0 ha
4	飼料作物等	耕畜連携助成(資源循環)	対象取組面積	(H29 年度) 0.4 ha	(H32 年度) 1.0 ha
5	飼料用米・ 米粉用米	飼料用米等の生産性向上	生産性向上の 取組面積	(H29 年度) 361.1 ha	(H32 年度) 400.0 ha
6	麦	麦の生産性向上助成 (担い手)	生産性向上の 取組面積	(H29 年度) 356.7 ha	(H32 年度) 400.0 ha
7	大豆	大豆の生産性向上助成 (担い手)	生産性向上の 取組面積	(H29 年度) 253.9 ha	(H32 年度) 290.0 ha
8	野菜	園芸振興作物助成	作付面積	(H29 年度) 62.9 ha	(H32 年度) 70.0 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

## 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり